

東 海 書 道 藝 術 院

平成 30 年 8 月

<http://www.toshogei.jp/>



風岡五城 会長



鄧偉 駐名古屋総領事

第65回公募東海書道藝術院展

授賞式・祝賀会報告

揚州市訪日団をお迎えして

日中平和友好条約締結四十周年記念

平成三十年四月三日（火）

十六日（日）、第一会場・電気文化会館東西ギャラリー、また四月二十四日（火）～二十九日（日）には第二会場・名古屋市民ギャラリー栄に於いて、第65回公募東海書道藝術院展が開催された。今年は会期が分れたので、二日に院人以上作品、二十三日に受賞作と会員以下作品を、それぞれの会場に搬入した。理事長、各部署局長指示の下、皆連携よく展示は進み、夕方遅く無事開幕準備が整った。

第一会場は三日、午前十時から開場式。中華人民共和国駐名

古屋総領事・鄧偉先生、中日新聞社名古屋本社事業局長・加藤宏幸様、日中文化協会専務理事・唐啓山先生をお迎えし、風岡五城会長挨拶のあと、鄧偉先生から御祝辞を賜った。続いて幹部、大賞受賞・宮田杏花氏と並んでテープカットが行われ、会場は華やかな雰囲気包まれる。開幕初日はじっくり鑑賞する来場者で大いに賑わい、また中国・揚州市側の作品は懐かしく、昨年の訪中友好展の記憶が蘇ってきた。

午後、ホテルキャッスルプラザでは授賞式と祝賀会。授賞式

へは入賞者から八十五名が出席し、司会は三品芳翠常任理事。衆議院議員江崎鐵磨先生代理様、五禾書房社長・桑原喬様よりご祝辞を頂き、各賞表彰へとスムーズに進行。宮田杏花氏の謝辞がよく心に響いた。

続いての祝賀会は、来賓、賛助会員を合わせて百八十七名が一室に会し、今年も大村秀章名誉会長、加藤宏幸中日新聞社事業局長が65回展を祝う言葉を下さった。宴半ば過ぎには、上位入賞者の抱負、幹部役員の記念撮影と壇上は笑顔で溢れ、終始和やかな時が流れていた。



第一会場 開場式テープカット

日を待って二十四日、揚州市文学芸術界連合会主席・仲衍書先生、揚州市国画院院長・安玉民先生、揚州市宣传部幹部所所長・沈娟娟先生、揚州市文連美術館館長・肖劍鋒先生、揚州市外事弁公室職員日本語通訳・蔡文姣先生の五名の方々を、第二会場にお迎えする事ができた。会長挨拶に続き、仲衍書先生が蔡文姣先生の通訳でお言葉を述べられ、幹部、大賞・宮田氏と御一緒にテープカットをされた。また記念の写真撮影、幹部と談笑されながら場内観覧、懇親の昼食会と、一行はにこやかな表情でお過ごしになっていた。



肖劍鋒先生



沈娟娟先生



安玉民先生



仲衍書先生



日本語通訳 蔡文姣先生



第二会場 開場式テープカット



来日された先生方と記念撮影



幹部、大賞・宮田氏と共に鑑賞

第65回 東海書道芸術院展作品抄録

愛知県知事・名誉会長 大村秀章

平成戊戌歳首

鶏犬相聞

愛知県知事 大村秀章書

名誉会長 豆子甲水之

衆口鑠黄金

甲水之書

心手合一

会長 岡五城



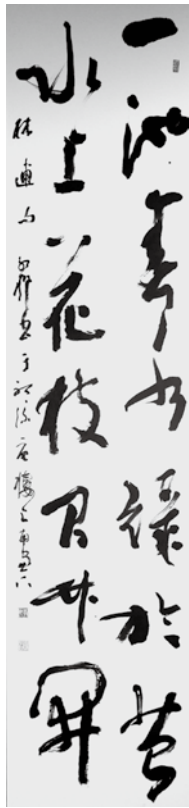
作品を鑑賞される大村愛知県知事

副会長 安藤清舟

空を飛ぶ鳥の如く
萬物皆有情
人生如夢
轉眼即逝
此心何處
安藤清舟書



理事長 木村大澤



常任參事 水谷紅楓



常任參事 松浦白碩



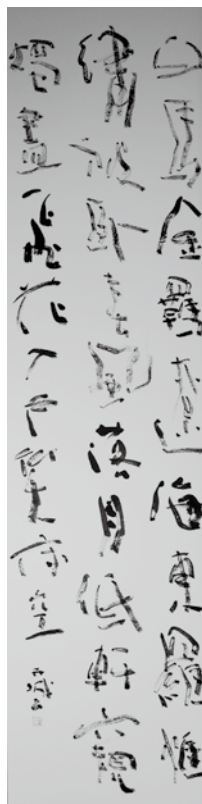
常任參事 西尾邑城



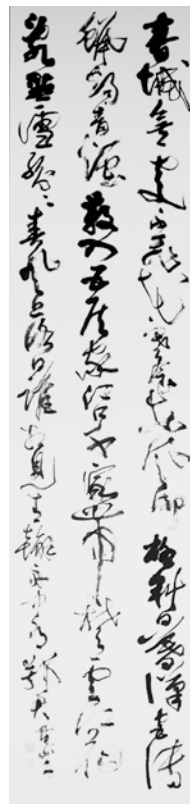
副會長 久野北崖



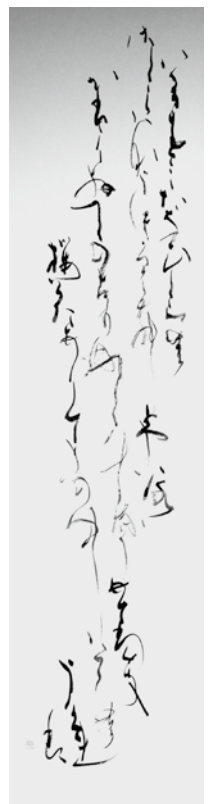
副理事長 山本晴城



副理事長 谷口竹城



副理事長 尾関陶山



副理事長 伊藤春魁

〈上位受賞者の作品〉

會員の部 大賞 宮田 杏花

弟妹無人居門前車馬跡林幽偏聚
 路深谷花里宋旗兒搞白半四其歸鋤家
 中何所自惜二休書 華山詩 杏花 于 和送唐

會員の部 準大賞 瀬田 霞泉

黃鳥翻楊柳春風送客使人悲悲別自驚
 里外恰支神竹十手時雲開流水孤帆遠
 山匹馬遲此地從來可乘興留君早住蒼
 滿其 霞泉

會員の部 知事賞 中根 靜流

方丈峰遙在天臺曉映雲人間見畫老
 喬鶴不羣以生隨萬物何處生塵氣
 登松錦江春色未下地玉泉涼室慶
 莫相侵可憐後主還相府日京聊為
 吟錄 北有持 靜流

會員の部 中國総領事賞 松尾 華景

望愛羊如積山晴花更繁從後一川水高
 下數家都靜想雞鳴午燕尋天必昏
 歸未向人說疑見武陵源
 主翁心 松尾 華景

東書藝幹部による

第六十五回展 私の選んだこの作品

幹部七名の先生方に、賞の対象とはならない院人（常任理事以上の役員を除く）の中から、ご自分の社中以外でこれとは思われる秀作を八点選んで頂く恒例の企画。その方々のお名前と作品写真、また内二作品の講評をご紹介します。

會員の部 中日賞 江 場 由紀子

（以下、作品写真）

會員の部 県教委賞 吉戸 清華

酌酒與天... 自賞人情物度似波深
 白首於心... 離離劍舞... 先達... 浮雲... 何處... 不如... 且... 清華

會員の部 東書藝賞 堀切 清之助

（以下、作品写真）

風岡五城会長

① 鈴木 礼美

粘り強い線でぐいぐいと書き進めていく気魄に圧倒される。それでいて文字の大小や余白には細やかな配慮が感じられる充実の作である。

② 小島 芳泉

形は程よくほぐれ、線質は無

限の変化を見せている。甲骨文字による独創的な表現が魅力だ。

③ 鈴木 晨風

⑤ 梶 蘇山

⑦ 勝川 香艸

安藤清丹副会長

① 伊藤 春草

修練された行草。

④ 賀田野春汀

⑥ 横井 青蓮

⑧ 伊藤 一楓

極端に主役を作らず、安定した字形で纏め、書の本道をいく。確実な線で淡々と構成された充実感ある快作。

② 賀田野春汀

気を込めて引かれた線、一字の中、紙面全体共に墨量の変化が奇抜、独自の表現に好感が持てる作。

③ 勝川 香艸

⑤ 杉原 和香

⑦ 三村 菱花

久野北崖副会長

① 加藤 紫香

唐詩五首。墨量豊かに書線の大小・太細のバランスも良く、丹念に書いてあり生氣有る作。

② 佐野 小徑

鄭明選詩。筆力、筆勢、脈絡も

有り、気負いなく、緩急の妙も程良く余白の生きている作。

③ 伊藤 一楓

⑤ 山本 美峰

⑦ 横井 青蓮

西尾邑城常任参事

① 加藤 紫香

六朝の書風を根底に、多字数の詩をリズム良く、懷を広く余裕をもって書き切る手腕は感服。今後も精進を。

② 花井 萃川

張瑞図の作風を完全に自己葉籠の物として木の葉のゆれるが如く、時計の振子の原理を最後まで一貫した見事な作。

③ 寺田 景翠

⑤ 鈴木 晨風

⑦ 菅野 香楓

④ 伊藤 春草

⑥ 伊藤 惠翠

⑧ 加藤 美園

松浦白碩常任参事

① 小川 若紫

悠々と筆を走らせており、自在の動きをみせる。円熟味が十分に発揮されて枯れた味わいのある作。

② 杉原 和香

七行書き、多字数で小字ながら、余裕があり静かな情感を漂わせる。纏まりの良い筆致で見応えのある作。

③ 鳥居 雅舟

⑤ 鳶 皓月

⑦ 花井 萃川

水谷紅楓常任参事

① 須藤 春華

大胆な運筆と、筆線の強さが魅力。

② 勝川 香艸

余裕あり、充実した書線に老

筆を感じる。

③ 三村 菱花

⑤ 菅沼 松峯

⑦ 山本 美峰

木村大澤理事長

① 竹田 清章

筆勢際立つ充実の行草書。肥瘦・潤渇・緩急等、めりはりの効いた書線が書者の意のまま活躍し、タイトル「春風」を感じる快作。

② 小川 若紫

シンプルな造形の草書でこれだけの大字を書ける技量はさすがの一言。熟練の線が紙面に悠然と展開し、鑑る者を魅了する。

③ 野田 清華

⑤ 伊藤 南邨

⑦ 橋口 賢岑

④ 片岡 清貞

⑥ 伊藤美どり

⑧ 恒川 幸子

鈴木 礼美

伊藤 春草



小島 芳泉



賀田野春汀



加藤紫香

雲雨連江入海平，明送客是山孤。海陽觀水如開片，水如雲臺春曉明。月滿關東，
里長征未還，但及城郭猶存。故國馬度陰，昇書江自數千程。晚風殘月，人歸清
湖之閣，上風急都入長。揚雄作賦，日及暮啼，兩江流觀，逆水對愁。戰戰兢兢，外摩
他來，聲聲到案，如遠雲山。石樓斜，雲生數千之，家傳中，生發林晚，霜葉紅於二月花。

佐野小徑

昔年龍江黃葉飛，江濱有柳吹風。不知何處清秋客，
北望鴻雲落日，馬行人歸。言聲中，言聲已先。言聲
市傷心，言聲是非一，言聲安一個，長城人，古道寸寸，寸寸。

須藤春華

朱有橋邊望，草花馬衣巷口夕陽斜。
陽斜一舊時王謝，中前飛入尋常百姓家。
劉禹錫詩 鳥衣巷 唐 劉禹錫

勝川香艸

二月春風吹柳絮，三月春風吹楊花。
楊花飛盡楊柳青，楊柳青青江水平。
楊柳青青江水平，楊柳青青江水平。
楊柳青青江水平，楊柳青青江水平。

花井萃川

松尾海棠堂主，主君主君，主君主君，主君主君。
黃梁半熟白壁一隻，驚虎要須野州鳴鶴。
無心掃物，無心掃物，無心掃物，無心掃物。

竹田清章

一枝之黃花，中極極，極極，極極，極極。
簪子也，梅美潔，潔，潔，潔，潔。
作，作，作，作，作，作，作，作，作，作。

小川若紫

心清如水，心如明鏡，心如明月，心如白雲。

杉原和香

古文書，古文書，古文書，古文書，古文書，古文書。
古文書，古文書，古文書，古文書，古文書，古文書。
古文書，古文書，古文書，古文書，古文書，古文書。
古文書，古文書，古文書，古文書，古文書，古文書。

鈴木晨風

東風吹綠柳，柳絮飛如雪，雪如柳絮，柳絮如雪。
柳絮飛如雪，雪如柳絮，柳絮如雪，雪如柳絮。
柳絮飛如雪，雪如柳絮，柳絮如雪，雪如柳絮。
柳絮飛如雪，雪如柳絮，柳絮如雪，雪如柳絮。

梶蘇山

陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳。
陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳。
陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳。
陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳，陽柳陰柳。

橫井青蓮

歸隱幽州

看雲如夢

白題請水西青古木回裏樓風
半醒半醉一遊三日紅白牡丹中

伊藤一楓

菅沼松峯

西定能擊人獨畏操莽威鬼神能福人獨於孔
孟遺令古世鑒戒禍亂未除問天不
言展平一息者書陸羽詩指詩松峯

水谷汀華

維南農村曉霧包神堂名村綠芽桂聲遠響無人
訪烟生獨著洗鉢鉢草拂金風拂柳碧滿前
邊清溪野徑啼鳥啼啼心自力

三村菱花

煙東方星在夜此眾來醉初喧或分爭
中靜雜明戲淋漓身上衣顛倒筆不
字人生如此少酒戲且初墨

山本美峰

西山清虹

西山清虹

千一志

速聽江上笛臨觴一送君思悠
獨向夜更向都齊聞

伊藤綠穗

鬼頭青峰

一枝紅艷露凝香雲雨巫山枉斷腸借問漢宮誰得
似可憐飛燕倚新粧若年傾國兩相歡長得君王帶
笑看解釋春風無限恨沈香亭北倚欄干

村崎松筠

茶煙不甘晨炊斷
能令午夢涼

桜井花筵

東郊漸涼綠驅馬行楊花柳絮野渡晴泉
落盡山僧身自瘦物外趣在澗心常歸
路近樵歌一段日寒以上歐陽修詩伊川楊花筵

蟹江西葩

山中誰與我
說空階下石苔
笛鶴隨風定
凌霄花亂落
岸巾高士倚
長松

寺田景翠

玉蕊珠簾
倚闌看新柳
衣羅衣
灤散黃

第六十五回東書藝展 受賞者に聞く

今年も東書藝展で栄えある賞に輝いた皆さんの中から、会員、準会員の部の上位入賞者の皆さんにアンケートに答えて頂いた。

書に対する姿勢や考え方の一端がうかがえるので、参考にされてはと思う。また受賞者の作品の一部を4頁に掲載しましたので併せてご覧の程を。

設問内容は以下のとおり。

- (1) 現在学んでいる古典は何か。
- (2) その古典からどのようなことを学ぼうとしているか。
- (3) 今回の出品作で、表現上最も力を注いだのはどんな点か。
- (4) 今回の出品作で、用具用材（筆、墨、紙など）を工夫した点はあるか。
- (5) どのような「書道観」をお持ちか。又は、あなたにとって「書道」とは何か。
- (6) 受賞された感想と今後の抱負。

◆会員の部 大賞



宮田杏花

- (1) 集字聖教序。
- (2) 線質、字の形。
- (3) 線質、字の組み合わせ、流れ。
- (4) 使い慣れた用具。
- (5) 私にとって「書道」は、多岐にわたり、人生に広がりをもたらしてくれる存在です。
- (6) この度は思いがけず、栄誉あ

る賞をいただき、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。この賞を頂くことができましたのも、いつも熱心に御指導下さる水谷紅楓先生をはじめ、諸先生方のおかげと、心より御礼申し上げます。

迷うこと、悩むこともありましたが、淀むことなく、日々精進して参りたいと思います。今後とも指導の程、よろしくお願い致します。

◆会員の部 準大賞



瀬田霞泉

- (1) 王羲之の「蘭亭叙」。
- (2) 線質。字の形。
- (3) 全体の流れやかすれ具合、線質を意識しました。
- (4) 用具は今まで使ってきたものとほぼ同じです。
- (5) 「書道」は小学生の頃からずっとやっておりますが、まだまだわからない部分があり、とても奥の深いものです。先生からはよく白と黒のバランスに気を使い上品な字を書くことを心がけるように言われております。
- (6) 今回、私がこのような大きな賞を受けることが出来るとは予想もしていませんでした。思いがけない素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございます。現在は喜びの気持ちと同時に豊田先生の指導にも深く感謝しております。この賞をきっかけにさらに書道の向上を目指してゆきます。

◆会員の部 知事賞



中根静流

- (1) 王鐸。米芾。
 - (2) 運筆、線質、字形。
 - (3) 文字の粗密と連続性。余白を意識した行の流れと明暗。
 - (4) 兼毫筆。台湾画仙紙。磨墨。
 - (5) 古典から基礎、基本を習得し、自分なりの創作作品が書けるよう、今は稽古量に挑戦しています。
 - (6) この度は、六十五回記念展で名誉ある賞をいただき、誠に有難うございました。これも風岡五城先生をはじめ宏道書会の先生方のお陰であり、感謝申し上げます。今回、特に嬉しかったのは、先生ご自身が体調を崩された中でのご指導に応えることができたことです。
- 今後とも先生の教えにあるように「量から質への変容」ができるよう、精進してまいります。
- 最後に、東海書道藝術院の益々のご発展を願っています。

◆会員の部 中国総領事賞



松尾華景

- (1) 九成宮醴泉銘。蘭亭叙。
- (2) 運筆。線質。字形。
- (3) 線質。字形。バランス。
- (4) 使い慣れている道具を使用。
- (5) 忙しい日常の中「書道」に向き合っている時間は「無」になれる、私にとっては大切な存在です。
- (6) この度は身に余る賞を頂き大

変恐縮しております。これも御指導してくださる安藤清舟先生のおかげと大変感謝しております。

これからも楽しみながら気負わずこつこつと精進して参りたいと思います。本当にありがとうございます。

◆会員の部 県教委賞



吉戸清華

- (1) 王羲之。草書。智永千字文。
- (2) 運筆。形態。
- (3) 緩急と墨量とバランス。
- (4) 使い慣れた筆（浙江湖筆）。墨は花仙。紙は紅星牌。
- (5) 私にとって書道とは、人との繋がりを感じられる芸術です。一つの作品を仕上げる中で、詩の意味を感じながら、筆の運び、線、その時々呼吸を想像することは、とても楽しい時間です。
- (6) この度は、大変素晴らしい賞を頂きありがとうございます。日頃より、熱心にご指導頂く、今枝大軒先生に心より感謝しております。

◆会員の部 中日賞



江場由紀子

また、私が書道を夢中に、そして楽しみを感じる事ができるのも諸先生方のお蔭であり、深く感謝しています。

今後も尚一層精進して参りますのでご指導くださいます様、よろしく願ひ致します。

- (1) 元永本古今集。本阿彌切古今集。自叙帖。
- (2) 字形と運筆。
- (3) 上下の余白と文字のバランス。
- (4) 細い線が美しく出る筆を使用。
- (5) 家族。子供の頃からのつき合いで、何度も辞めたいと思つたのに、自分の支えになってくれています。
- (6) この度は、身に余る賞を頂きありがとうございます。いつも熱心にご指導下さる山本晴城先生と、かなの奥深さを教えて下さった故竹内小逕先生のお蔭と心より感謝申し上げます。少しでも成長できる様、これからも稽古に励んで参ります。

◆会員の部 東書藝賞



堀切清之助

- (1) 褚遂良の孟法師碑。
- (2) 字の結構。
- (3) 墨の濃淡、線質。
- (4) 好きな青墨があり、続けて使っています。
- (5) 稽古することにより、これまで書けなかったところが少しずつできるようになり喜びを感じます。書を通じて素晴らしい先生方や多くの仲間と出会え、楽しく充実して過ごしています。
- (6) 身に余る賞を頂きありがとうございます。今後も伊藤春魁先生の手本を見ながら先生の運筆を学習し、上達できるよう励みたいと思います。

◆準会員の部 市長賞



加藤真風

- (1) 黄庭堅。
- (2) 運筆。線質。



壇上の役員の先生方

日中平和友好条約締結40周年記念
第65回 公募 東海書道藝術院展 祝賀会
主催 東海書道藝術院・中日新聞社

(3) 墨量と行間。
(4) 使い慣れた用具。

(5) 日常を忘れ無心に白い紙に向かう楽しい時間です。

(6) この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。いつも温かく御指導下さいます太田稲風先生をはじめ、諸先生方のお蔭と感謝しております。これからもより良い作品が出るよう、楽しみながら学んでいきたいと思っております。御指導の程お願い申し上げます。

◆ 準会員の部 県教委賞



高橋 雅

(1) 王鐸。
(2) 線のキレ。躍動感。
(3) 行の流れ。行間の余白の美。
(4) 使い慣れた筆、墨。
(5) 私にとつての「書道」は、非日常の時間を楽しみ、無の境地に立てる大切なもの。
(6) この度は身に余る立派な賞を頂き、ありがとうございます。幼い頃より熱心にご指導して下さいました舟木泰風先

生を始め、諸先生方、そして書友のおかげと心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れず努力し続けて参りたいと思います。

◆ 準会員の部 市教委賞



金谷典子

(1) 高野切。関戸本。九成宮。
(2) 粗密。濃淡。遅速。柔らかな流れと余白の美しさ。

(3) 女性らしい流麗さの中に真の強さや重量感のある線質。
(4) 料紙の色と質感、多種の墨の濃淡と墨量、両方の組み合わせで表現される違いを探究。
(5) 「継続は力なり」。

一日1%の積み重ねを毎日続ける事を念頭に、その先に見えて来るものへの追求を諦めず、たくさんの人と書を楽しむみたいです。
(6) この度は、思いがけず、素晴らしい賞を頂き感激しております。これも偏に伊藤春魁先生、井浪幸潭先生のご指導、お力添えによるものと衷心より感謝しております。ま

た日々の生活の中で、ふれあう人や物事全てに意味があること、そして感謝の気持ちを持たずに一層努力を重ね、力をつけたいと考えております。そして人としても成長できる様、楽しみながら歩んでゆきたいと思しますので皆様の変わらぬお導きをいただければ幸甚に存じます。

◆ 準会員の部 中日賞



楠 良平

(1) 王羲之。
(2) 運筆。字形。
(3) 全体の流れ、墨の量。
(4) 使い慣れた筆。

(5) 「書道」とは、自らを落ち着かせ、冷静にさせてくれる存在です。継続してきたことで、今の自分があると考えております。

(6) この度は、思いもよらず、身に余る賞を頂き、誠に有難うございます。これもご指導下さる尾関陶山先生のお蔭と、心より感謝しております。今後も、良い書を書ける様、

自らと向き合いながら、精進して参りたいと思います。

◆ 準会員の部 中日賞



佐々木治子

(1) 蘇孝慈墓誌銘。関戸古今集。
(2) 蘇孝慈墓誌銘から骨格の強さ、関戸本古今集から柔軟さ。

(3) 詩の情景を思い浮かべながら、線質、運筆に気をつけました。

(4) 使い慣れた筆と墨。
(5) 私にとつての「書道」とは、生き甲斐の一つでもあり、日常生活の中で夢中になれるかけがえのない存在です。

(6) この度は身に余る素晴らしい賞を頂き、誠に有難うございます。喜びと同時に、大変恐縮に存じております。これもひとえに、いつも熱心にご指導下さる伊藤春魁先生のお蔭と感謝しております。また、教室の書友の先輩の皆様、応援してくれる家族、友だちへの感謝を忘れず、一層の精進をして参りたいと思います。本当に有難うございました。

◆ 準会員の部 東書藝賞



伊藤緑香

- (1) 集字聖教序。千字文。
- (2) 字形。線質。運筆。
- (3) 墨量と行の流れ。
- (4) 使い慣れた筆。
- (5) 書道は私の生きてゆく上での道しるべ。多くの作品や人とのつながり、出会いを通して心を豊かにしてくれるものです。
- (6) この度は名誉ある賞を頂き、ありがとうございます。亡き師、館柳説、鈴峰先生、お二人方のお蔭と感謝しております。書道の「書とは印された墨線であり、道は印す行為を行う心である。書道の尊さはその人間の心の広さ、即ち豊かさである。学ぶことは人間を作ることである。未来の自分を作るのは誰でもない自分である」という師の信条を心に刻み、精進して参りたいと思います。

◆ 準会員の部 東書藝賞



伊藤壽萬子

- (1) 褚遂良。
- (2) 運筆。線質。
- (3) 墨量の濃淡。
- (4) 使いなれた筆を使いました。
- (5) 書道とは奥深いものだと思います。毎日の生活の中で心静かに自分自身と向き合える至福の一時です。
- (6) この度は思いがけなく大きな賞を頂き、大変恐縮しております。これも熱心に、御指導下さった谷口竹城先生のおかげと深く感謝しております。まだまだ未熟な私ですが、この賞を励みに一層精進していきたいと思っています。



第四十回 宏道書会選抜展

平成三十年五月十五日～二十日

第四十回選抜展は、小品という限られた自由度の中で、創造性がよく発揮された好展。木村大澤理事長より寄稿頂いた。

理事長 木村大澤

第四十回の記念にあたる選抜展が、五月十五日から二十日まで、栄サンシティギャラリーで開催された。総出品点数三十二点。東書藝の所属中では大きい団体でその歴史も長い。記録を紐解いて調べてみると、私の初回参加が、第七回（昭和六十）で遙か昔のこと。当時は山本宏城先生が会長で、会を引率されていた。第十六回（平成六）から風岡五城先生が会長として就任され、会を充実発展された。第二十八回（平成十八）から会場を中日ギャラリーから栄サンシティギャラリーに移して開催。第三十一回（平成二十一）から現会長山本晴城先生が会を引っ張り現在に至る。今年、山本会長の就任十年になる。東書藝展の他、産経国際書展・宏道書展などを中

心に着実に歴史を刻んできた。今後も益々の発展を期待したい。

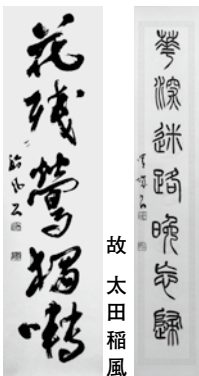
風岡名誉会長は品格溢れる充実の扁額二字。山本会長は穏やかな風趣の小篆七字句。尾関陶山・羽根田菖橋両副会長も、魅力ある作品を発表された。

昨年、第三十九回展を目前にご逝去された竹内小選先生は、本会また東書藝にとって本当に大切な先生でした。この場を借りて心からの感謝と哀悼の意を表します。宏道書会は、創立半世紀に向けて更なる歩みが続けます。

追記…本展終了から一ヶ月、太田稲風先生が急逝されました。衷心よりご冥福をお祈りします。



風岡五城



故 太田稲風

第二十五回 無名會書展

平成三十年五月十五日〜二十日

新緑が眩しい五月の好日、名古屋市民ギャラリー栄での第二十五回無名會書展へ出かけた。会場に入るとあちこちで楽しい感想や作品評が聞かれ、雰囲気が良い。作品の練度は高く、個性的で多彩だ。ここに渡辺代表が心境を寄せて下さった。

無名会とは

渡 辺 清 香

世間に名の知られていないメンバーでの展覧会です。それを「無名會書展」との名付け親は故澤井瘦蛙子、早いもので十三回忌を迎えました。書展は二十五回展となりました。身無し子の私達は月三度有志者で勉強会を続けております。



澤井先生に見ていただいていた時は様々な臨書を「これでもか」と書いても半紙が朱で染まりました。作品とは、作者の学んだ臨書の線



をベースに自由な表現で心象を描きそこから風景が広がり音楽が聞こえてくる……そんなものが作れたら……体質に合わない事はやめます。各々の持ついる資質を大切に（何かの本で読んだ記憶がある）嬉しいことに「市民ギャラリーに来て、ついでに覗いてみたけど、こりや面白いわ、住所書いておくで次は案内しようよ」またギャラリーに電話で「無名會の展覧会は何時ですか？」と問合せがあるそうです。何よりも励みになります。いつまでも皆様に愛される無名會でありたいです。

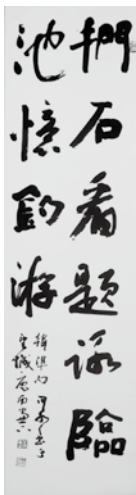
第六十回 新道書道会展

平成三十年六月一日〜三日

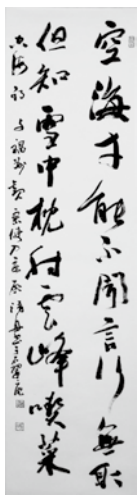
第六十回新道書道会展が、四日市市文化会館にて盛大に開催された。今展は、先の東書藝・揚州市友好書法展出品作三十六点も特別展示。豆子甲水之会長、安藤清舟先生、水谷紅楓先生はじめ錚錚たるメンバーが多数名を連ねる実力者集団の記念展である。線質に味わいがある余白の美しい作品が多く、王道をいく正統派の伝統書が並んだ壁面は格調が高い。流石と言わしめる展覧だった。今後益々のご発展を。



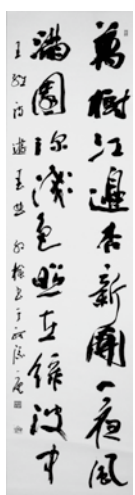
豆子甲水之



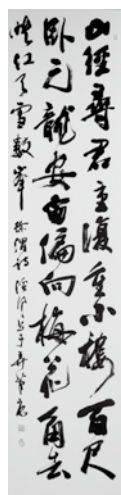
安藤 清舟



水谷 紅楓



福井 溪風



福井 溪風

平成30年度 東書藝総会

六月十七

日(日)、

電気文化会

館イベント

ホールに於

いて東書

藝総会が

開催され

た。出席者

二百十三

名、委任

状預かり

四百八十三名で規約第二十二

条により総会は成立。司会井口

清華常任理事。羽根田菖橋参事

による開会の言葉に始まって、

風岡五城会長、木村大澤理事長

挨拶の後、司会者一任により議

長に富永奇昂常任理事が選出さ

れ審議に入った。

①平成29年度事業報告

②平成29年度会計報告

③平成29年度監査報告

④平成30年度事業計画並びに予

算案

⑤新役員について



以上の案件が報告・審議され、それぞれを承認。また風岡五城会長が再任を快諾され、会場から大きな拍手が沸き起こった。そして第65回展での昇格者九十五名を代表して、宮田杏花氏に委嘱状を授与。最後に松浦白碩常任参事の閉会の言葉で総会は滞りなく終了した。

休憩をはさみ、この度東書藝・客員に就任された、唐啓山先生を講師にお招きし、「漢字の歴史と美」の演題で講演会が行われた。ここに深く感謝申し上げます。先生の経歴をご紹介します。



唐啓山先生略歴

1984 北京大学考古学部卒業
1989.7 来日
1989.9～名古屋大学美学美術史研究室在学
2000～日中文化協会 専務理事
2000～北京大学特別研究員
2011～愛知大学非常勤講師

第45回記念 '18 心象展

平成三十年七月十日～十五日

書作研究好日社の歴史を、入口の年譜が語っている。先駆者、梶田東崖先生が「心の形を表出する書展・心象」を提唱、その精神は今に継承されてきた。会場は独創的な作品多数で、壮観だ。

四十五周年を迎えて

代表 岩田冬崖

四十五回展を迎えることができました。会員の皆さん、そして好日社を取り巻く多くの方々のお陰と深く感謝申し上げる次第です。



思い起こせば、心象展提唱の梶田東崖先生は東書藝理事長の要職に就かれていた頃、大池晴嵐先生の苦渋の英断と、その後の進むべき道を遮ざる問題に直面され「屋台骨を背負う好日社がしつかりしなれば晴嵐先生の思いも泡



岩田冬崖

となるばかりか、東書藝の存続すら危惧される。書歴とか肩書に惑わされることなく、作品のみで世に問う姿勢を更に強く確立しなければ円滑な運営もままならぬものとなる。」と憂慮。このような状況を踏まえての第一回心象展が昭和四十九年に開催された訳で、血のほとばしる様な作品が出品の第一関門でありました。東崖先生逝去後の遅々たる歩みは歯がゆいものでございますが、一致団結精進を重ねる所存です。今後一層のご指導、ご鞭撻を賜ります様にお願致します。

'18「今日の書」代表作家展

平成三十年七月十七日〜二十三日

中日ギャラリーにて開催。以文会、玄玄書作院、書典社、東海書道藝術院の四団体から二十九作品を展示。東書藝は幹部十二名の出品である。

風岡五城

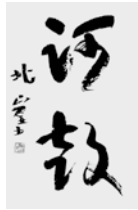
安藤清舟



久野北崖



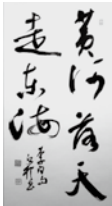
尾関陶山



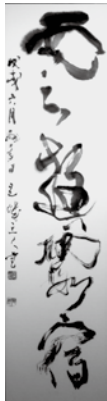
伊藤春魁



水谷紅楓



西尾邑城



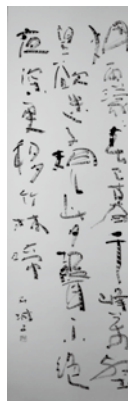
松浦白碩



山本晴城



木村大澤



谷口竹城



豆子甲水之

追悼 太田稲風先生



太田稲風さんを偲ぶ

風岡五城

本会常任理事で宏道書会副理事長の太田稲風先生が、六月二十一日に永眠された。療養中の短い入院と伺った矢先の突然の訃報であつた……

太田稲風さんと私は山本宏城門の同門である。四十年以上の長い付き合ひだつた。師亡きあと先輩格の私が指導する立場になつたが、師匠と弟子というより同じ書の道を歩む仲間と言つた方がふさわしいように思う。

彼の人柄は温厚篤実、何より家族思いの人だつた。

書は王鐸や傳山の書を学んで行草の連綿を得意とし、一家の風を成した。水墨画も嗜んで、書と併せて気の利いた作品を作るのが得意だつた。書とは離れるがカラオケも上手かつた。十八番は「ラブイズオーバー」。車を運転しながらテープを聞いて覚えるので、ついにはテープの音が擦り切れるほどになつたという。

晩年には漢詩も始めて、今年の二月には漢詩文研修センター

心聲社の「心聲漢詩選」に自選の詩十二首を発表するまでになつた。その内の一首を紹介しよう。最近の彼の心境がよく表出されている。

新年口占

凝眸す 山色 雪粧晨

草木 萌芽し 亦た一新

独坐 適然たり 書院の裏

詩を試み 筆を把りて 清貧を事とす

享年六十七歳。やり残したことがいっぱいidezさぞ悔しかったであろうと思う。心からご冥福を祈らずにはられない。合掌

加藤真風

太田稲風先生のご逝去の悲報に驚きと深い悲しみでいっぱいです。

入院前、検査で一週間程病院だからとおっしゃっておりましてのに、こんなにも急に別れが訪れるとは、未だに信じられま

せん。

初めて先生にお会いしたのは私がまだ小学校に入学したばかりの頃、傍で先生が始められた書道教室に通うようになったのがきっかけでした。いつも教室の階段をあがると、墨の香りと先生の優しい笑顔が私達生徒を迎え入れて下さいました。温

厚で一人一人の長所をよく引き出して下さる、本当にかけがえない先生でした。

今後は、先生からいただいたご教訓を生かし、書道の楽しさを教えていただいた事に感謝しつつ頑張っていこうと思います。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

社中の歩み

◆第40回宏道書会選抜展

会期 30年5月15日～20日

主催 宏道書会（山本晴城）

◆第25回無名會書展

会期 30年5月15日～20日

主催 無名會（渡辺清香）

◆第60回新道書道会展

会期 30年6月1日～3日

主催 新道書道会（豆子甲水之）

◆'18心象展

会期 30年7月10日～15日

主催 好日社（岩田冬座）

◆第34回2018清和会書展

会期 30年8月4日・5日

主催 清和会（西尾邑城）

◆第'18八千代書道展

会期 30年8月18日・19日

主催 書芸八千代会（梶 蘇山）

◆第44回宏道書展

会期 30年8月21日～26日

主催 宏道書会（山本晴城）

今後の予定

◆2018東書藝研修会

期日 30年9月9日(日)～10日(月)

会場 名鉄犬山ホテル

◆第42回公募梓会書道展

会期 30年9月11日(火)～17日(月)

会場 名古屋博物館 三階

主催 書道研究梓会

◆第22回東書藝選抜小品展

会期 30年9月18日(火)～24日(月)

会場 中日ギャラリー

主催 東海書道藝術院

◆第61回游心書展

会期 30年9月19日(水)～24日(月)

会場 電気文化会館東ギャラリー

主催 游心書道会（松浦白碩）

◆第38回飯田書人会展

会期 30年9月20日(木)～24日(月)

会場 飯田創造館

主催 飯田書人会（加山幽石）

◆第52回碩山書院一門展

会期 30年9月22日(土)・23日(日)

会場 蒲郡市民会館東ホール

主催 碩山書院（大竹翠葉）

全振興会

◆第19回心書会展

会期 30年10月26日(金)～28日(日)

会場 亀山市文化会館

中央コミュニケーションセンター

主催 心書会（安藤清舟）

◆第35回花墨会展

会期 30年12月8日(土)・9日(日)

会場 三重県菰野町図書館2階展示室

主宰 松岡麗泉

◆第15回記念攻玉書会展

会期 30年12月22日(土)・23日(日)

会場 豊田市民文化会館

A・B展示室

主催 攻玉書会親交会

（羽根田菖橋）

編集後記

◆今号は優秀作品を多数掲載した。改めて書表現の多様性が観てとれるが、輝く作品には技巧だけでない魅力がある。

◆昨年来の中国関連事業も無事一区切りがついた。幹部の先生方、特に山本晴城渉外局長、賛助会員の青柳堂・浅岡高史様の奮闘・尽力に深謝。

◆危険な夏が継続中、ご自愛を。

平成三十年八月 第一三五号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤松亭

堀江龍舟

TOPICS

愛知県・江蘇省友好書道展愛知県展が六月十九日～二十四日、日中国交正常化四十五周年、日中平和友好条約締結四十年記念事業として、電気文化会館5F西ギャラリーで開催された。昨年十一月の中国・江蘇

省展での日中の作品に、県内在住小中学生の優秀作品計百八十点を展示。

両国の作風の違いも楽しめた。東書藝からは幹部十名が出品。大いに存在感を示していた。